



Apple at Work

# スマートな投資

## Apple製品への投資は、経済的で合理的な選択です。

### 設計時から耐久性を考慮

デバイスは、あなたの毎日に欠かせないパートナーです。そのため、私たちは耐久性の高い素材を使用し、オペレーティングシステムのアップデートを継続的に提供し、万が一の場合にも簡単に修理できるように設計しています。

Apple製品は長く使えるように作られています。例えば、iPhone 12、iPhone 12 mini、iPhone 12 Pro、iPhone 12 Pro MaxはIEC規格60529にもとづくIP68等級に適合する防塵性能と、IEC規格60529にもとづく耐水性能を備えています。これは、水深6メートルで最大30分間耐えられることを意味します。

Appleの信頼性試験研究所では、現実よりも厳しい条件下で、製品の耐久性の強化に取り組んでいます。まず、堅い表面にぶつけた時のような機械的ストレスへの耐久能力をテストします。耐候性試験では、デバイスを極端な高温と低温、湿気の多い環境、強烈な日光にさらします。化学物質への感受性試験では、コーヒー、炭酸飲料、日焼け止め、ケチャップなどをこぼした場合のデバイスの耐久性を評価します。国際規格で要求されている以上の試験を行うことも多く、時には独自の基準を設定することもあります。

こうした試験によって、限界を超える状況下で製品に何が起こるかを調べます。その後、CTスキャナや電子顕微鏡など最新の機器を使って、マイクロレベルで構造にどのような影響があるか徹底的に調査します。

ここで得た情報を設計者やエンジニアにフィードバックし、耐久性をさらに高めるために役立てています。製品開発プロセスでは、Appleが設定した厳格な性能基準に合格するまで、このサイクルが何度も繰り返されます。

例えば、iOS 14は以下のすべてのデバイスに対応しています<sup>1</sup>。

- iPhone 12
- iPhone 12 mini
- iPhone 12 Pro
- iPhone 12 Pro Max
- iPhone 11
- iPhone 11 Pro
- iPhone 11 Pro Max
- iPhone XS
- iPhone XS Max
- iPhone XR
- iPhone X
- iPhone 8
- iPhone 8 Plus
- iPhone 7
- iPhone 7 Plus
- iPhone 6s
- iPhone 6s Plus
- iPhone SE (第1世代)
- iPhone SE (第2世代)
- iPod touch (第7世代)

macOS Big Surは以下に対応しています<sup>2</sup>。

- 2015年以降に発売されたMacBook
- 2013年以降に発売されたMacBook Air
- 2013年以降に発売されたMacBook Pro
- 2014年以降に発売されたMac mini
- 2014年以降に発売されたiMac
- iMac Pro
- 2013年以降に発売されたMac Pro

Appleデバイスの高い費用対効果について、詳しくは以下を参照してください。

[apple.com/jp/environment](https://apple.com/jp/environment)

[apple.com/jp/financing/](https://apple.com/jp/financing/)

[apple.com/jp/business/it](https://apple.com/jp/business/it)

## シンプルなソフトウェアアップデート

Appleのデバイスは耐久性が高だけでなく、アップグレードしやすいように設計されています。こうしたアップグレードは複数世代の製品にも対応しているため、多くのユーザーが最新のソフトウェアの機能を利用できます。

Appleのソフトウェアアップデートのプロセスはシンプルで効率的です。そのためアップデートの採用率はその他のプラットフォームをはるかに上回っています。2021年6月3日の時点で、過去4年間に発売され、App Storeにアクセスしたデバイスのうち、90パーセントが最新バージョンのiOSを使用していたことがわかっています<sup>3</sup>。

Appleデバイスにおけるオペレーティングシステムの一貫性は、ユーザーにメリットをもたらすだけではありません。IT部門の管理のしやすさも向上します。導入されたすべてのデバイスのオペレーティングシステムが同じであれば、ハードウェアとソフトウェアのサポート、アプリケーション開発、統合、セキュリティアップデートなどの作業がシンプルになります。

## 高い残存価値

耐久性の高いハードウェア、世界中に広がる修理サービスプロバイダのネットワーク、シンプルなソフトウェアアップデートというメリットを兼ね備えたApple製品は、ライフサイクル全体にわたる残存価値が高いため、費用対効果もより高くなります。

最近の調査では、デバイス1台当たりでMacとWindowsパソコンを比較した場合、Macは購入価格が300ドル高いにもかかわらず、3年間のハードウェア、ソフトウェア、サポート、運用のコストを考慮すると、Windowsパソコンよりも843ドル節約になるという結果が出ています<sup>4</sup>。

最後は使われなくなったり廃棄されたりするデバイスとは違い、Apple製品は残存価値が高いため、アップグレード時にそれまで使っていた製品を下取りに出すことができます。

また、Apple Financial Servicesでは、これまでにないファイナンスオプションを提供しています。このプランはAppleデバイスの残存価値が高いことを前提にしているため、今使っている製品を下取りに出さなくても、導入当初からコストを抑えることができます。

## 直感的に使えて、導入も簡単

Apple製品は直感的に使え、ビジネスユーザーは少ないサポートでより多くのことができるようになり、さらにコストを抑えることができます。前述の調査では、Macユーザーからのサポートチケットの数は、ほかのデバイスのユーザーよりも50パーセント少なく、しかも解決までのコストは25パーセント少ないと報告されています<sup>4</sup>。

Appleデバイスの導入と管理は、たとえ大規模であっても簡単です。すべてのiPhone、iPad、Mac、Apple TVの設定と構成を自動で行えるので、IT部門がデバイス1つひとつに対応する必要がありません。Apple Business Managerを活用すれば、デバイスを社員に直接配布ことができ、社員はデバイスを箱から出してすぐに使うことができます。手動で構成する必要がないため、さらにコストを抑えられます。つまり、仕事を効率化するツールを、会社にとってコスト効率の高い方法で社員に手渡すことができます。

<sup>1</sup>詳しくは、[support.apple.com/ja-jp/HT211348](https://support.apple.com/ja-jp/HT211348)を参照してください。<sup>2</sup>詳しくは、[support.apple.com/ja-jp/HT201475](https://support.apple.com/ja-jp/HT201475)を参照してください。<sup>3</sup>詳しくは、[developer.apple.com/jp/support/app-store](https://developer.apple.com/jp/support/app-store)を参照してください。<sup>4</sup>Appleの委託により独立系調査会社のForrester Consultingが実施した「The Total Economic Impact™ (TEI) of Mac in Enterprise」(2021年7月)の調査に回答した企業からのデータに基づきます。自社の経費削減について把握するには、Forresterの調査報告で提供されているフレームワーク内で、独自の見積りを使用する必要があります。